

## 学びの継続計画

### 1 学びの継続方針

臨時休校、分散登校等、どのような状況になっても学びを止めず、生徒が「自律して学ぶ力」を身に付けられる学習環境を整える。

### 2 現状把握

	ICT 活用環境・教員の ICT スキルの現状	自律した学習者を育むための学びの工夫
強み	電子黒板などの環境が整っている。 ハード面の環境は整っている。 ICT スキルの高い職員がいる。 ICT に強い職員が率先して動いてくれる。 職員のやる気は大いにある。 生徒はタブレットを使える。	I C Tを用いた家庭学習に取り組めた家庭が多い。 授業動画とともに紙ベース教材を望む生徒が多い。 教科の課題に対して、しっかり取り組み、提出する意識と習慣ができています。
弱み	スタジオや機材の準備が不十分 教科、個人により ICT スキルに差がある スタジオ等の整備 スキルの無い職員が多い 学べる時間と指導できる職員が少ない ICT 生徒環境の整っていない家庭がある	全員、一律の課題を課している。 学習課題の提出を求めるが、生徒は受け身であり、主体的な学びとならない。 生徒が自らの学習を振り返る場面が少ない。 実技教科における ICT 活用方法が研究途上である。

### 3 学びの継続のために準備しておくこと

ICT 活用環境・教員の ICT スキル向上	自律した学習者を育むための学びの工夫
①家庭に Wi-Fi 環境がない生徒が学べる校外の場の確保（公共施設、自宅から近い学校等） ②全教員が ICT 活用に必要な基礎知識の習得 ③動画作成、双方向型授業の実践的校内研修 ④GoogleClassroom による模擬 SHR 準備・計画 ⑤ID 取得後の Google 活用方法の研究 ⑥教材をデータ化し共有 ⑦ICT 支援員の配置、活用法の研究	①ICT を使うこと以外の学習指導のあり方についての研究 ・何を家庭で、何を学校で学習するかを明確化 ・主体的・対話的な授業の推進 ・紙媒体の課題と ICT 使用を使用した課題の併用方法研究 ・通常の授業とオンライン授業の組合せ ・自らの考えや提案をする力の育成 ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成する。 ②生徒や保護者向け ICT 活用ガイダンスの実施 ③地域社会の発展・貢献につながる協働的、探究的な学びをさらに促進

### 4 再び臨時休業になった際の学びの継続

段階	遠隔学習の内容	学習状況の把握方法
休業が家庭の ICT 活用環境の整備前	・家庭に機器がない場合は貸し出し、Wi-Fi 環境が整備された公共施設や近隣校等で学べるようにする ・紙媒体により、電話、メール、郵送等を活用した指導 ・Google、学校 HP 等の活用 ・プリント課題と動画（短時間）配信の併用 ・スマホでの視聴を前提とした教材（動画）作成 ・プリント課題の工夫（例題＋演習など）	・紙媒体課題の提出、取組状況の把握 ・小テストの実施 ・学習計画書、学習記録の提出 ・分散登校による個別指導の充実
休業が家庭の ICT 活用環境の整備後	・パソコン、タブレット、Wi-Fi 環境のない生徒に機器を貸し出す ・Web 会議システムを活用した双方向型授業の実施 ・双方向型 SHR（決まった時間に） ・オンデマンド授業（YouTube） ・Google 等で探究的な課題や演習を配信 ・少人数グループでのオンラインによる話し合い ・双方向型とオンデマンドを組合せた学習スタイルの確立 ・時間割をつくり、取り組む時間を決めた学習	・双方向型通信による聞き取り ・個別指導＋双方向型授業（オンライン）＋オンラインテスト（Google のアンケート機能利用） ・口頭試問